

8 市場

(1) 日経平均株価

平成17年の東証一部日経平均株価(225種、期中平均値)は12,422円58銭、対前年差1,243円33銭高となり、2年連続で前年を上回った(図67)。

東証一部日経平均株価(225種)の推移をみると、平成15年4月には最安値7,607円88銭まで下落したものの、同年8月には1万円台を回復。その後1万1千円台維持しながら、平成17年後半には大幅に株価が上昇し、平成17年第 四半期では14,489円91銭となった。

【日経平均株価】

日本経済新聞社が東京証券取引所第一部に上場している225銘柄(定期的に入れ替え)を対象に平均金額を算出したもので、株式市場全体の株価水準を示す代表的な指標です。株価が上昇すると、企業資産の含み益が増え、企業活動に好影響を与えます。また、株式取引に直接参加していない消費者や経営者にも大きな心理的影響を与えるため、景気の先行指標といわれます。

(2) 円相場

平成17年の東京外国為替市場の円相場(対米ドル、期中平均値)は113円26銭、対前年差5円77銭高となり、2年振りに円安となった(図68)。

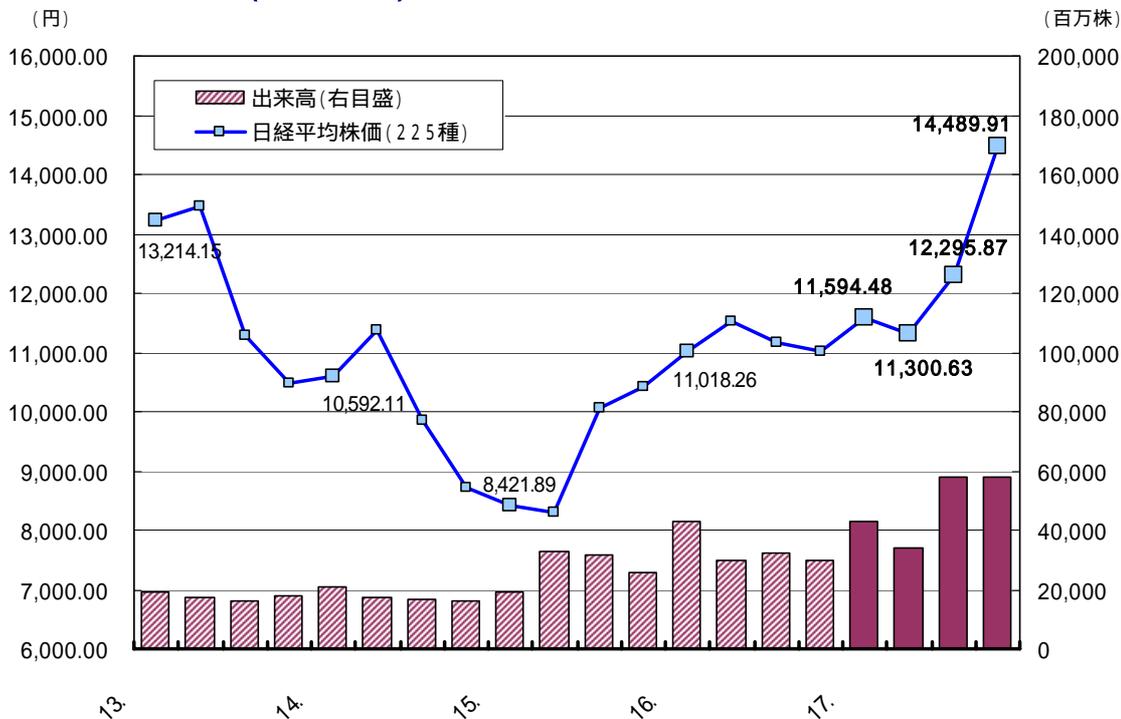
円相場(対米ドル、期中平均値)の推移をみると、平成17年第1四半期には104円51銭となったが、その後円安傾向が続き、同年第3四半期には1ドル=110円を超え、平成17年第4四半期では117円31銭となった。

【円相場】

円とドルの交換比率(対ドルの為替レート)です。為替レートは商品の値段を決めるときと同様に需給バランスで決まります。その通貨を必要とする人が増えれば値上がりしますし、減れば値下がります。為替レートの変動は、外国貿易を行っている企業に直接的な影響を及ぼし、「円高」では輸出業者が損をして輸入業者が得をします。「円安」の場合は逆になります。また、円高になると輸入品価格が低下し、物価下落の要因となり、一方、輸出価格が上昇し、国際競争力を低下させます。円相場が日本経済全体に与える影響はとて大きいいため、政府・日銀が介入する場合があります。

【 日経平均株価の推移 】

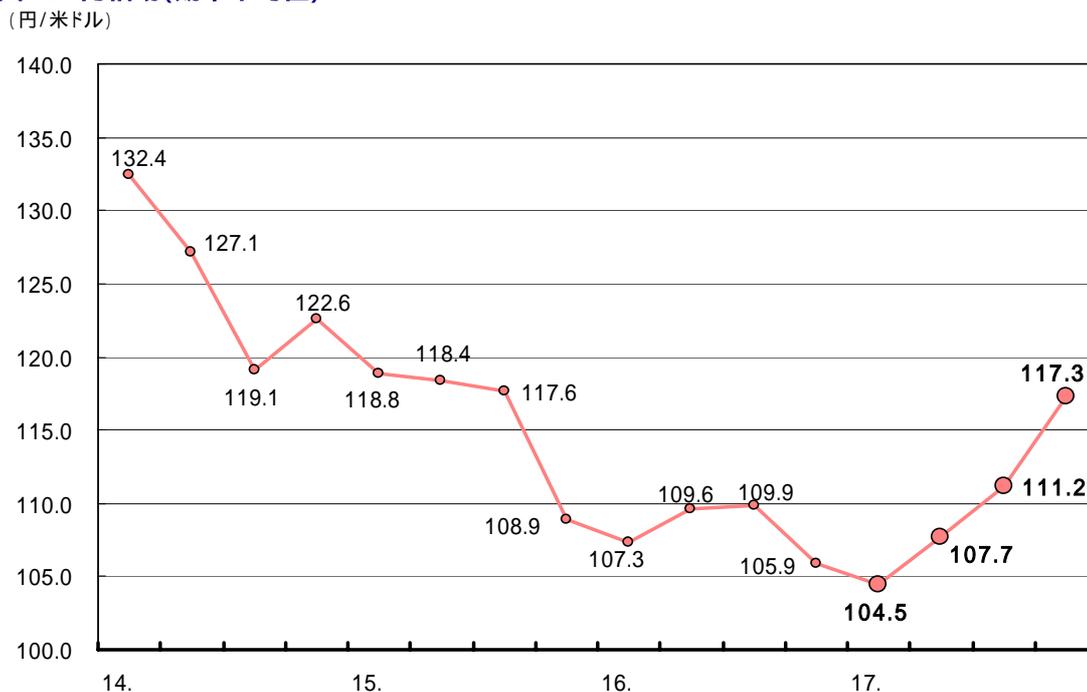
図67 日経平均株価(期中平均値)及び出来高



備考 1 (資料:日本経済新聞、東京証券取引所資料により作成)

【 円相場の推移 】

図68 円相場(期中平均値)



備考 1 (資料:日本経済新聞より作成)

指標は、P.88に掲載